

主体的な学習態度を育てる生活科の学習指導の在り方
－ICT を効果的に活用した授業の改善を通して－

日立市立諏訪小学校

1 はじめに

コロナウィルス感染症で「学校の新しい生活様式」を求められる中、ICT 教育は大きく期待されている。諏訪小学校では、「主体的な学習態度を育てる学習指導の在り方」というテーマで課題研究を行っており、生活科においてもどのように ICT が活用できるか考え、授業改善を行ってきた。

生活科は直接対象と関わる体験活動と表現活動とが連続的・発展的に繰り返されることにより、育成を目指す資質・能力として期待される児童の姿が表れ、積み重なって確かなものとなっていく。記録したり、表現したりする際にICTを活用することが考えられる。また、これまでの生活科の記録を視覚的に分かり易く提示することで、興味や関心を喚起したり、記録した情報を基にした伝え合いを充実させたりすることができると考えられる。更に、活動後に自らの取組を客観的に振り返り、活動のよさに気付くことが可能となる。ICTを取り入れることにより、自分の思いや考えを明確にすることができ、主体的な学びにつなげられるのではないかと考え、展開したものである。

2 指導案

(1) 単元名 たのしいあきいっぱい

(2) 本時の目標

- ・自分のお薦めする秋の遊びを友達に認められたことを喜び、もっと季節を生かした遊びをしたいという思いを友達に話したり、ワークシートに書いたりしようとする。
- (学びに向かう力、人間性等)

(3) 展開

学習内容・活動	指導上の留意点・評価基準【評価方法】 ○指導に生かす評価◎記録に残す評価
1 秋探しの画像をモニターに映したり、作品を掲示したりすることで発表会への関心を高める。 ・お薦めの秋遊びを友達に教えたいな。 ・夏の水遊びの頃とは様子が違ったね。 2 本時の課題を確認する。 あきさがしでみつけたことをみんなにはっぴょうし、いろいろなあきをしよう。 3 注釈を書き込んだ作品の写真をモニターに映すことによって、自分が見付けた秋や楽しかった遊びについて紹介	・秋探しをした動画等を視聴し、活動を振り返る。 ・ICT 機器を活用し、様々な活動を振り返ることで自分たちがしてきた体験を思い出せるようにし、発表しやすい雰囲気をつくる。 ・活動のめあて、時間や順番の確認をする。 ・2人一組、3人一組で発表の練習をする。 ・全員で発表を聞き、自分で見付けられなかった秋を見付けたら、ワークシートに書くよ

し合う。 ・赤い線で囲んであるところが秋を感じたところだよ。青い線で囲んだところは、工夫したところだよ。 ・実物を見せた方が伝わるかな。 ・写真を説明した方が分かり易いかな。 ・別の場所でもおなじ秋があったよ。 ・相づちを打ちながら聴いてくれて嬉しいね。 4 紹介し合った内容について評価し合う。 ・集めた秋の物で、おもちゃをつくって遊びたいな。 ・知らなかった秋を見に行ってみたいな。 ・青空広場にもくすのき広場にも、知らない秋がまだまだあったね。 5 まとめをする。 ともだちのしょうかいでいろいろなあきをすることができた。もっと秋と遊びたい。 6 振り返りをする。	うに伝える。 ・じっくり聞いている児童を称賛する。 ・発表を聞いている児童の新たな気付きや関連した気付きが生まれた時は、そのつばきを拾う。 ○発表に戸惑いを感じる児童には、教師が質問をし、発言を引き出す事で、全員が紹介をできるようにする。 （知識・技能）【発言・観察】 ・友達の発表を聞いて、感動したことを聞いたり、新たな秋に気付いたりした場合は発表させ、思いを深めたり、広げたりする。 ・自分が感じなかった秋のよさに気付いた児童を発表する児童がいたら称賛し、広める。 ◎自分のおすすめの遊びを友達に認められたことを喜び、もっと季節を生かした遊びをしたいという思いを友達に話したり、ワークシートに書いたりしている。（主体的に学習に取り組む態度）【発言・記述】 ・友達の発表に共感したり、みんなで秋を楽しめたことを称賛したりする場を設ける。
--	---



3 成果と課題

成果としては、以下の3点が挙げられる。児童が自分の作品を写真に撮ったものにタブレットを用いて題名や工夫を書き込むことで思考が整理でき、発表がスムーズに行えたこと。課題提示の場面では、秋探しの模様を写真や動画で提示することで、興味関心を持つことができること。振り返りの場面では、友達の評価を聞くことによって、自分の作品や発表を客観的に振り返ることができたこと。だが、なんと言っても壊れやすい作品や立体作品が形となって残ることが良かったと感じる。

課題としては、児童がICT機器に慣れるのに時間がかかることや、他の学年との使用時間の調整が挙げられるので、計画的に使用していきたい。